

各号でヨーロッパ各国の日本語教育事情をお伝えしておりますが、今回はチェコの三上京子さんをお願いして、カレル大学での授業の様子を紹介して頂きます。

カレル大学日本研究学科の授業

カレル大学 三上 京子

私の勤務するカレル大学日本研究学科は、哲学部東アジア研究所というところに属します。ここでは日本語のほかに中国語、韓国語、ベトナム語を専攻することができますが、毎年応募者が殺到し高い競争率となるのが日本研究学科です。今年も5月末に入学試験が行われ、募集定員20名に対し応募者が140名ありました。プラハにはカレル大学に入学するための予備校的存在となっている語学学校もあり、学生たちはひらがな・カタカナの習得に加え、東洋や日本に関する様々な知識を詰め込んで試験に臨みます。今年の1年生の中には、3度目の受験でやっと合格したという学生もいます。

では、念願の日本研究学科に入った学生たちがどのような日本語授業を受けているかをご紹介します。カレル大学では3年前に学士3年、修士2年という新しいシステムに切り替えた際、1・2年次の主教材を『みんなの日本語初級』に変更しました。そして現在、日本人講師2名、チェコ人講師2名、合計4名のチーム・ティーチングで授業を進めています。

まず、チェコ人講師がチェコ語で各課の文法説明と代表的な例文の提示を行います。次に私が日本語で文型の意味や使い方の確認、運用練習を行い、続けてチェコ人講師(博士課程生)も運用練習と副教材なども使った聴解や読解の練習問題をします。そして各課の最後に私が会話と作文の授業を行います。もう一人の日本人講師が担当する漢字の授業もあわせると、1週間に1コマ90分の授業が6コマです。この時間数で今年は『みんなの日本語』の第37課まで終えました。

日本語・日本研究関連の授業はこのほかに、チェコ人の教授陣による「漢字基礎」「翻訳予備練習」「日本社会」「日本学演習」などがあります。「翻訳予備練習」では、1年次から非常に難しいテキストも使っています。また選択科目として「日本映画」という講義もあります。

2年生では、『みんなの日本語』を終えた後、中級の読解教材と中級文法の教材に入ります。チェコ人講師が文型・文法や語彙の説明を行い、私とその運用練習と読解本文を担当します。そして本文のテーマについて作文を書かせ、学生一人ずつに短いプレゼンテーションもさせています。また会話教材を用いた聴解練習や会話表現の練習を行っています。カレル大学の卒業生は日系企業へ就職したり通訳として活躍したりすることも多いので、特に敬語の指導には力を入れています。2年生の日本語の授業は週5コマで、そのほかは1年生とほぼ同様です。

今年の3年生は、私は週1コマしか担当授業がなく、前期は上級の読解教材を使って文型表現の学習と読解、作文を担当しました。しかし学生たちからは、授業の時にあまり話す練習ができないという声が上がったため、後期はチェコ人講師と相談してここでもチームを組んで授業を行うことにしました。まず、チェコ人講師が上級の読解テキストをチェコ語の解説のもとに読ませます。そして翌週の私の授業で、読んだテキストのテーマについて一人の学生が発表、続けて討論を行うというものです。学生たちはテキストの内容を十分消化した上で発表や討論に臨めるということで、この方法は成功したように思います。3年生の授業はこのほか「文型・文法と漢字」の授業しかありませんから週3コマです。最終学年としてこれでは少なすぎるのではということで、秋からの新年度に向けてカリキュラムの改訂が行われる予定です。

今年秋には新システムになって初めての修士課程生が誕生します。修士課程での日本語の授業がどのようになるか、誰がどの科目を担当するかまだ決まっていますが、学生たちが「さすがカレル大学の卒業生」と言われるような日本語力を身に付けることができるよう、私も精一杯尽力していきたいと思っています。